

# さりげない「心遣い」

家族みんなにとつて快適な住まいに、いつまでも暮らし続けていきたい。

安全・安心で、使いやすい。それは基本だけれど、それだけではちょっと物足りない。毎日の暮らしの中でもほつと心をほぐしてくれるような心地よさを感じられれば、もっと愛着を持つて暮らしていくのではないでしょうか。

そう考えた積水ハウスは、従来のユニバーサルデザインから一歩進んで

心地よさも加えた「スマートユニバーサルデザイン（スマートUDO）」をご提案しています。

今号では、「スマートUDO」について、そのルーツをたどりながら考察してみました。



「六甲アイランドCITY W7Residence」モデルルームの玄関・廊下。靴の脱ぎ履きをスムーズに行えるよう、ベンチと手すりを提案しています(オプション)。ゆるやかなカーブを描くベンチは空間になじみ、手すりは握ったときに心地いい革巻きにしています。

また、ドアノブが突出しない廊下は広いだけでなく、すっきりして見た目にも美しい空間になっています。

## スマートに認められた想い

ユーバーサルデザインという言葉は、誰もが使いやすいデザインとして広く一般に浸透しつつあると思いますが、そこに「スマート」という言葉をつけたことに、どのような意味があるのでしょう?

「まず、積水ハウスが推進しているスマートUDの経緯をお話しましょう。当社は1980年代から、生涯住宅思想という考え方に基づいて住まいづくりを追求していく、当初は身体的なハンディキャップのある方や加齢により日常生活に負担が増えた方が、ストレスなく暮らせるようと研究を行ってきました。でも研究を続けるうちに、これは対象者を限定しなくても、誰もが使いやすい住まいではないかと気づいたんです」

(上井)

「そこで、2002年にこれまでの研究や実績で培ってきたノウハウを整理し直し、積水ハウスユニバーサルデザイン(SH-UD)という独自の基準を定めたんです」(田中)

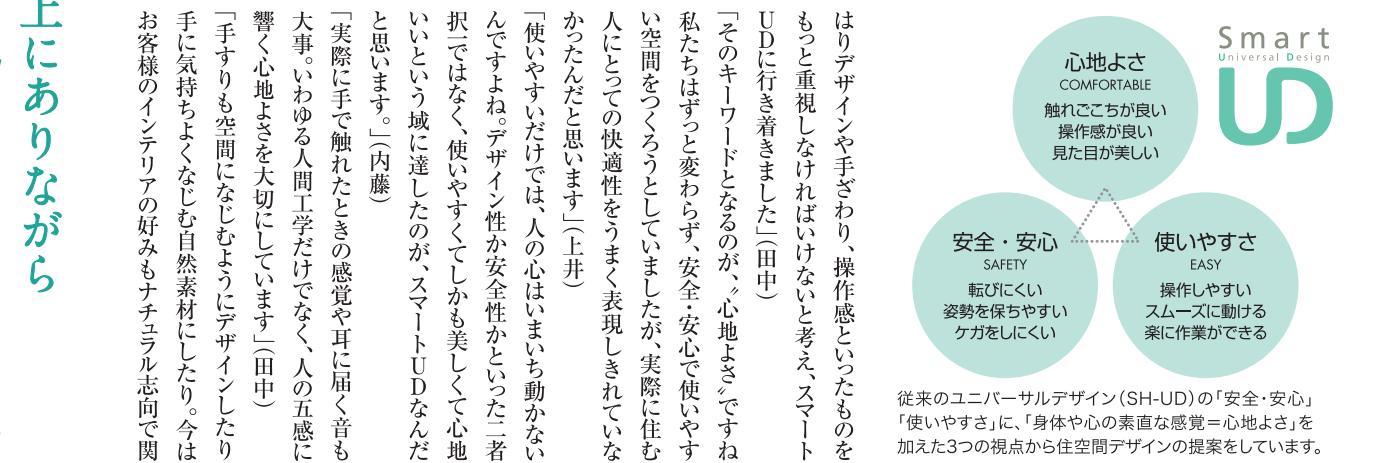
「そもそも取り組んでいた、誰もが安全・安心で、使いやすい住まいづくりにより明確な指針を示したということですね」(松原)

「まだ業界全体にそうした意識がなかった頃なので、先駆者としての苦労もありましたね。最初の頃は使いやすさとデザイン性のバランスがうまく取れていないこともあったように思います」

(田中)

「たとえば、安全で使いやすいけれど、武骨なデザインになってしまった、というように」(上井)

「それでは誰にどうでもありがたいものをつくっているはずなのに、その魅力が伝わりにくい。や



心が高くなっていますから、それも後押ししてくれていますね。(上井)

「新しい言葉(スマートUD)で整理したことでお客様に説明しやすくなり、共感していただきやすくなりました」(松原)

スマートUDという概念は突然出てきたのではなく、これまでの生涯住宅、SH-UDの流れをくんでいるのですね。

「ええ。たとえばメーターモジュールの廊下は、尺モジュールを取り入れたことで、ゆとりを感じられる空間づくりを実現してきました」(田中)

「特に廊下やトイレなどの空間で、違いが実感じやすいですね。スタートモジュールの廊下は、尺モジュールに比べて約8cmも広いので、お子さんを抱いていても大きな荷物を持っていても、スムーズに通れます。それって住む人にとって、とても暮らし心地のいいことですね。積水ハウスがメーターモジュールを採用したときに、すでに今の考え方につながる礎が築かれていたのだと思います」(上井)

「使いやすいだけでは、人の心はいまいち動かないんですね。デザイン性が安全性かといつた二者抜ではなく、使いやすくしかも美しくて心地いいという域に達したのが、スマートUDなんだと思います」(内藤)

「実際に手で触れたときの感覚や耳に届く音も大事。いわゆる人間工学だけでなく、人の五感に響く心地よさを大切にしています」(田中)

「手すりも空間になじむようにデザインしたり、手に気持ちよくなじむ自然素材にしたり。今はお客様のインテリアの好みもナチュラル志向で関

か気になるというのは分かりやすいと思いますが、心地よいというのは、意外と伝わりにくいで

「細かい配慮も多いので、注意していないと気づかないというところもあるかもしれません。それが

人間で不思議なもので、何かが使いにくいか気になるというのは分かりやすいと思いますが、心地よいというのは、意外と伝わりにくいで

「細かい配慮も多いので、注意していないと気づかないというところもあるかもしれません。それ

から話が広がりますね。たとえば六甲アイランドCITY W7 Residenceの廊下(P10・11写真参照)ですが、普通より広く感じますか? 幅にゆとりがあるだけでなく、ドアノブが突出張っていないので、広々としているんですね。

せんか? 幅にゆとりがあるだけでなく、ドアノブが突出張っていないので、広々としているんですね。

通常はトイレなど外開きのドアのノブが出っ張っていますが、それを解消するために二重枠としています。さらにドアクローザーを建具に内蔵することで、扉を閉めているときすっきり見える

ように配置しています。こうした細かな配慮の



## これまでのUDの延長線上にありながら「美しくて心地いい」という域にきたのでしよう。(内藤)

部屋の中に入ったとき“あれ？ 何か違うよね”と感じただけだと嬉しいですね。(松原)



### Research #1

#### メーターモジュールと尺モジュールの比較

1尺(約91cm)を基準にした尺モジュールと、1mを基準にしたメーターモジュールの違いは、廊下やトイレなどのスペースで実感しやすくなっています。たとえば廊下の幅は、メーターモジュールの方が約8cmも広くなるのです。そのため、廊下に手すりをついた場合や、子どもを抱っこしたり、大きな荷物を持っているときなども余裕を持って行き来できます。



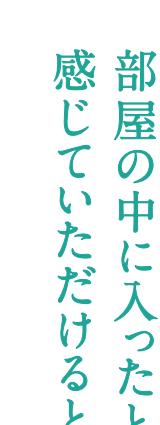
- ①軽く押す・引くだけで開くことができるプッシュプルタイプのドアハンドルを採用した玄関。高い操作性に加え、シャープなデザインが洗練された空間を演出します。(GM白金の杜 ザ・タワー／東京都)
- ②洗面コーナーのあるメーターモジュールのゆったりとしたトイレ。手すりを設けても余裕があり、安全・安心・快適が確保されています。(GM大手門／福岡県)
- ③ソフトクローズ機能のついた引き戸。勢いよく閉めても出入り枠に当たる直前にブレーキがかかり、ゆっくり静かに閉まります。(六甲アイランドCITY W7Residence／兵庫県)
- ④マグネットコンセント。コードに足が引っかかってもプラグがすぐに外れるので安心です。(六甲アイランドCITY W7Residence／兵庫県)
- ⑤空間を自由に仕切れるスクリーン建具と可動間仕切り収納。生活シーンに応じて空間を有効に活用できます。(GM自由ヶ丘テラス／愛知県)



5



1



4



2



3

積み重ねが、安全・安心、快適性につながっているのでしょう」(松原)

「実は今、松原さんが挙げてくれたような内容は、お客様には気づいていただきにくいところです。図面からはなかなか読み取りにくい特徴なので、体感していただくのが一番ですね」(内藤)

「モデルルームなどを訪れてくださったときに、実際に体験いただけすると、使いやすさや心地よさも感覚的に分かっていただけると思います」(上井)

「具体的でいえば、ソフトクローズ機能のついた引き戸もスマートUDを反映しています。急いでいるときなどに勢いよく扉を閉めてしまって、大

きな音にびっくり！なんて経験をしたことのある方もいらっしゃるでしょう。それが、ゆっくり閉まってくれるので、大きな音もしないし、指をはさまる心配もありません」(田中)

「マグネットコンセントもそうですね。ホットプレートを使っているときに、コードを足に引っかけ

てひっくり返ってしまう……大惨事になります。そういう、ちょっとした配慮が、長く暮らしていくたゞ上で大切なポイントとなるように思いますね」(内藤)

# なぜこうなるか、すべてに答えがある。 意志のあるデザインだから心地いいんです。(田中)

## 統一感が生む心地よさ

スマートUDの取り組みは、ほかにどういったものがありますか?



「心地よさは空間全体にもかかわってきますね。たとえば梁や柱は、一般的に邪魔なものだと思われているので、少しでも出っ張りを小さくしようとすることが多いです。しかし、私たちは空間を広くすることに加えて、梁や柱を美しく見せることが大切だと考えています」(上井)



「六甲アイランドCITY W7Residenceのリビングルームを見ても、梁を最小限にするだけではなく、統一感のある高さで揃えることで、すっきりとした空間になっています。梁を梁として意識させるのか、カーテンボックスや下がり天井とを考えるのか。捉え方次第で、空間は心地よくなるし、居心地悪くなるんだと思います。また細かいところですが、照明のスイッチとドアノブの高さを揃えているのも、一連の動作がスムーズに行えるようにするため。同時に、スイッチが子どもでも操作しやすい高さになる」ともボ



「梁を一定の高さで揃えてカーテンボックスと一体化させたり、扉とTV上部の収納の上端を揃えるなど、縦・横のラインに統一感をもたせるとすっきりとした印象に。(六甲アイランドCITY W7Residence/兵庫県)」



「床から天井まである大容量のシューズクローケ。シンプルな扉を閉めれば、アクセント壁のように美しく納まります。(六甲アイランドCITY W7Residence/兵庫県)」

イントです。このようにさまざまな形には理由があります。(内藤)

「そう、理由ですね。住まう人が使うときのことを考え、ものの配置や空間のディテールを決めしていくから、室内に統一感が生まれ、居心地がよくなる。なぜこうしているのか、すべてに意志のあるデザイナから、明確に答えることができるのでありますね」(田中)

「さりげない心遣いが積み重なったものなんです。私の中では、フルラットのセンターオープンサッシの気持ちよさが、スマートUDのイメージにぴったり合っています。見すると何が特別なものがあるわけではありませんが、フルラットだからまずはとにかく安全で、バルコニーの出入りがしやすいという使いやすさもある。そして、室内から外へと一体化して統一開放的な心地よさは多くの方に共感していただけるでしょう」(内藤)

## 実験検証の積み重ね

安心・安全、使いやすい、心地よい、ということ



国際ユニバーサルデザイン協議会  
International Association for Universal Design

IAUD(国際ユニバーサルデザイン協議会)のIAUDアワード2012において、積水ハウスの「納得工房体験型研修とSH-UDマスタークリエーター制度によるUD啓発活動」が大賞/経済産業大臣賞を受賞しました。

れ、2012年にはIAUDアワードにおいて大賞を受賞することができます。地道な実験検証の積み重ねを評価していただいたということは、嬉しく思います」(田中)

## さらに進化するスマートUD

「これまで長年にわたって総合住宅研究所で実験研究してきたことが、安全・安心で快適な住まいづくり全般のノウハウとなり、さらにグラン・ドメソングの企画・設計に最適化させることで、集合住宅におけるスマートUDとして具現化できました。これからもさらに緊密に情報共有することにより質の高い取り組みとしていきたい。そしていつまでも快適に暮らし続けていただきたい。住まいづくりをしていきたいと考えています」(上井)

\*

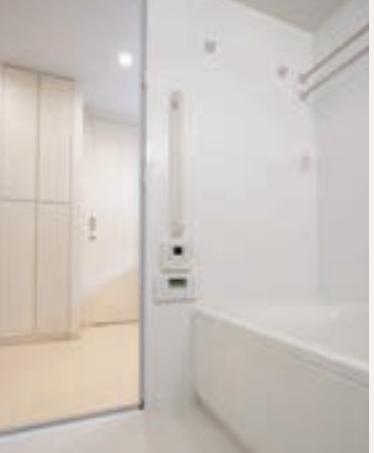
スマートUDは、今後どうなっていくのでしょうか?「スマートUDはグラン・ドメソングのベースの考え方として、より一層浸透していくでしょう。技術面においても、実験検証を重ねて進化していく

何かを特別に意識することなく安心して暮らせる毎日。そんな、いつもの暮らしの中のない心地よさを生み出すのがスマートUDの住空間デザインです。さりげない心遣いで暮らしに潤いを与えてくるスマートUDのこだわりに気づくと、住みなれた我が家に、より愛着がわくかもしれません。

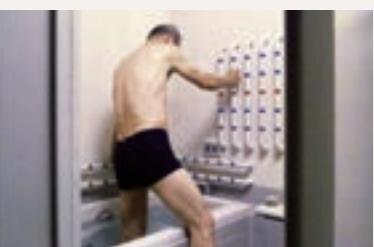


室内外の一体感を生み出し、開放感ある風景を美しく切り取るフルフラットのセンターオープンサッシ。段差がないのでバルコニーへの出入りがスムーズで、室内から屋外への伸びやかなつながりを感じられます。(GM千里中央東丘/大阪府)

## Research #2



**浴室手すり・浴槽またぎ高さの実験**  
入浴のひとときを安心して過ごしてほしいから、手すり位置やまたぎ高さと浴槽の出入りのしやすさについて調査・実験を実施。より安全な出入りをサポートする浴室空間のあり方を検証。その結果に基づいて、心身ともにリラックスできる浴室がつくられています。



浴槽またぎ実験(積水ハウス総合住宅研究所)

## Research #3

### トイレ手すりの実験

トイレの立ち座りのしやすさを徹底研究した結果として生まれたのが、トイレ棚手すり。握りやすい斜めの手すりと手をかけられる棚板を一体化させ、美しさと機能性を兼ね備えた独自のデザインに。



トイレ手すり検証実験(積水ハウス総合住宅研究所)

長年の経験と、実験検証の積み重ねで、今のスマートUDへと進化したんです。(上井)



は、感覚も大切ですが、それだけでは判断できない部分も多いですよね?

「経験や勘だけでは分からないことばかりなので、やはり検証は欠かせません。たとえば浴槽の手すりについても、あつた方がいいと思って、どこにつけるのがベストなのか分からず。そこで、高齢者の方に協力いただいて実験を行いました。さまざまな位置に手すりをつけ、浴槽への入りやすさを確認して、その結果、浴槽の真上にぴったり合っています。見ると何が特別なものがあるわけではありませんが、フルラットだから

ますにくくて安全で、バルコニーの出入りがしやすいういう使いやすさもある。そして、室内から外へと一体化して統一開放的な心地よさは多くの方に共感していただけるでしょう」(内藤)

「今では手すりをつけるのが一般的になっていますが、実験を行った当時はどこもそうした検証を行っていないかったんですね。浴槽のまたぎ高さで、さまざまなもので、さまざまなもので、さまざまな位置に手すりをつけ、浴槽への入りやすさを確認して、その結果、浴槽の真上に1本必要なことが分かる。さらに、浴槽から立ち上がるときにも横向きの手すりがあれば楽だと」(田中)

「今では手すりをつけるのが一般的になっていますが、実験を行った当時はどこもそうした検証を行っていないかったんですね。浴槽のまたぎ高さで、さまざまなもので、さまざまなもので、さまざまな位置に手すりをつけ、浴槽への入りやすさを確認して、その結果、浴槽の真上に1本必要なことが分かる。さらに、浴槽から立ち上がるときにも横向きの手すりがあれば楽だ」と(田中)

「今では手すりをつけるのが一般的になっていますが、実験を行った当時はどこもそうした検証を行っていないかったんですね。浴槽のまたぎ高さで、さまざまなもので、さまざまの手すりについても、あつた方がいいと思って、どこにつけるのがベストなのか分からず。そこで、高齢者の方に協力いただいて実験を行いました。さまざまな位置に手すりをつけ、浴槽への入りやすさを確認して、その結果、浴槽の真上にぴったり合っています。見ると何が特別なものがあるわけではありませんが、フルラットだから

ますにくくて安全で、バルコニーの出入りがしやすいういう使いやすさもある。そして、室内から外へと一体化して統一開放的な心地よさは多くの方に共感していただけるでしょう」(内藤)

「今では手すりをつけるのが一般的になっていますが、実験を行った当時はどこもそうした検証を行っていないかったんですね。浴槽のまたぎ高さで、さまざまの手すりについても、あつた方がいいと思って、どこにつけるのがベストなのか分からず。そこで、高齢者の方に協力いただいて実験を行いました。さまざまな位置に手すりをつけ、浴槽への入りやすさを確認して、その結果、浴槽の真上にぴったり合っています。見ると何が特別なものがあるわけではありませんが、フルラットだから

ますにくくて安全で、バルコニーの出入りがしやすいういう使いやすさもある。そして、室内から外へと一体化して統一開放的な心地よさは多くの方に共感していただけるでしょう」(内藤)

「今では手すりをつけるのが一般的になっていますが、実験を行った当時はどこもそうした検証を行っていないかったんですね。浴槽のまたぎ高さで、さまざまの手すりについても、あつた方がいいと思って、どこにつけるのがベストなのか分からず。そこで、高齢者の方に協力いただいて実験を行いました。さまざまな位置に手すりをつけ、浴槽への入りやすさを確認して、その結果、浴槽の真上にぴったり合っています。見ると何が特別の